

授業概要

これから本学で4年間学ぶにあたって最初に勉強することが重要であると思われる経済学の基礎を学びます。これらの知識は、実社会では常識ですので、大学の早い段階で修得しておくことが望めます。この演習では、基本的にはゼミ生全員が毎回指定された教科書の箇所を前もって読んできて、事前に決められた担当のゼミ生が報告資料を作成、配布したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきます。したがって、本演習では事前準備や当日の議論などを通じて、大学における勉学の進め方の基本を修得することができるように指導します。

授業計画

第 1 回	経済経営学部で勉強すること
第 2 回	経済の語源は「経世済民」
第 3 回	何を選択し、何を捨てるのか。それが経済学
第 4 回	ものの値段は需要と供給によって決まる
第 5 回	なぜ高級ホテルのコーヒーは高いのか
第 6 回	付加価値の合計が GDP
第 7 回	お金がお金である理由は？
第 8 回	金融とはお金を融通すること
第 9 回	銀行は融資の仲立ちをしている
第 10 回	なぜ職業によって給料が違う？
第 11 回	近代経済学の父、アダム・スミス
第 12 回	見えざる手—市場の自動調整機能
第 13 回	社会主義の父、カール・マルクス
第 14 回	経済政策の常識を変えたケインズ
第 15 回	新自由主義の旗手フリードマン
第 16 回	課題レポートの提出

到達目標

- 経済に関する基本的な概念を、適切に理解できる。
- 経済学とはどのような学問であるのかについて、概要を把握できる。
- 報告資料の作り方を学び、各回の授業において事前に作成できるようになる。
- プレゼンテーションの手法を学び、各回の授業で適切にできるようになる。
- ディスカッションのやり方を学び、各回の授業において効果的にできるようになる。

履修上の注意

大学生活に慣れていくために、教養演習Ⅰでの経験は極めて重要です。資料の作成、発表、議論などの基本を春学期の間に是非習得しましょう。また、毎回出席することも当然必要ですので、その習慣をきちんと身につけましょう。

予習・復習

発表担当者は事前にその資料を準備するとともに、全員がテキストの指定された箇所を事前に読んで理解し、各回のゼミ終了後に内容を復習することが必要です。

評価方法

担当箇所の発表 40%、各回のテーマに関する意見表明 30%、課題レポート 30%。

テキスト

- ・教科書名：『池上彰のやさしい経済学 1 しゅくみがわかる』
- ・著 者 名：池上 彰
- ・出版社名：日本経済新聞出版
- ・出版年月：2023 年 6 月 ISBN：978-4-296-11769-7 本体 1,600 円＋税

授業概要

今日、地球上では様々な重大かつ深刻な出来事が次々と毎日のように起きている。ユニバーサルに物事をとらえる能力が求められてきている。宇宙の中に存在する地球、地球上の一国家に生きる人間と考えなければならなくなってきた。地球温暖化は深刻化してきており、世界中で自然災害が発生している。地球上には人類以外にも様々な生物が生存していることを認識しなければならない。また思想の違いなどにより紛争も起きている。一方、テクノロジーが急速に発展してきており、生活環境が大きく変貌してきている。また、コミュニティにおける人とのつながりは健康の保持・増進に重要であることが明らかになってきている。本演習では、これらの様々な諸課題や変化について、情報を共有し、理解を深めた上で、自らの考えをしっかりと持ち、意見交換をしながら、コミュニケーション能力を醸成し、文章作成も行いながら、表現する能力、伝える能力を培えるよう、指導する。また、次世代を担うのは自分達であるとの視点や自覚が醸成されるよう、演習を通して指導する。

授業計画

第1回	宇宙と地球の歴史
第2回	人類の発展と生物多様性
第3回	人間とは？生とは？死とは？
第4回	地球温暖化
第5回	自然災害
第6回	戦争、紛争
第7回	世界地図で物事を考える
第8回	コミュニティ、地方創生
第9回	意思決定、ナッジ、思想、宗教
第10回	人種、DNA、家族、個人
第11回	国家、領土、領地、領空、領海
第12回	トランスヒューマニズム、ムーンショット計画
第13回	未来思考で物事を考える
第14回	歴史は繰り返す一人類の変遷からみた現在の国際社会・地域社会の在り方
第15回	まとめー世界を救うための処方箋
第16回	試験

到達目標

- ・相手に自身の考えをしっかりと伝えることができる。
- ・文章を読みこなすことができ、しっかりした文章を書くことができる。
- ・様々な思想や考え方があることについて理解を深めることができる。
- ・相手の考えに共感することができる。
- ・今、地球上でどのようなことが起きているかについて説明できる。

履修上の注意

まずは大学生活に慣れることが重要なので、休まず積極的に参加すること。

予習復習

事前に単元ごとに教科書をよく読んで、1時間程度予習してくることと、終了した単元を1時間程度復習すること。

評価方法

発表点（25点）、レポート点（25点）、学期末試験（50点）

テキスト

教科書名：図解まるわかり時事用語 2025-2026

著者名：ニュース・リテラシー研究所編

出版社名：新星出版社

出版年：2022年（ISBN：978-4405027855） 1200円

授業概要

1 年次の教養演習は、2, 3, 4 年次と徐々に専門的な内容に進んでゆく最初の段階の演習である。「演習」とは、何かのテーマについて教員から講義を受けて理解して終わるものではなく、学生自らが何らかの目的やテーマに対して、何かの行動を起こして初めて成り立つものであると考えている。そこで、教養演習Ⅰでは社会に出るために、就職するためにどのような人が求められているかを理解することにはじまり、そのための演習を指導する。その際の題材は、社会的な課題にかかわる時事的な資料を考えている。大学 4 年間でどのように過ごし、どのような卒業後（就職）を目指すのかは、常に意識してもらうように情報提供し、演習してもらうつもりである。

授業計画

第 1 回	ガイダンス・キャリアとは？
第 2 回	働く意味を考える
第 3 回	社会人基礎力の理解する
第 4 回	社会人基礎力を身につけるための方法
第 5 回	資料（例：人口問題）を使用した演習
第 6 回	資料（例：社会保障）
第 7 回	資料（例：働き方）
第 8 回	資料（例：共生）
第 9 回	資料（例：情報社会）
第 10 回	資料（例：地球環境）
第 11 回	資料（例：エネルギー）
第 12 回	資料（例：米中関係）
第 13 回	調べてきた内容を報告する①
第 14 回	調べてきた内容を報告する②
第 15 回	まとめ
第 16 回	定期試験

※ 人数等により進度と内容は随時調整します。資料は適宜、時事的なものに変更します。

到達目標

テキスト等の資料の内容を適切にまとめることができる。
自分の意見を適切な文章で正しく伝えることができる。
自分の意見を発言で他人に正しく伝えることができる。

履修上の注意

テーマは上記の例示のとおり時事的な内容を想定している。到達目標に示したように、講義ではなく演習なので、学生が聞くだけの内容ではない。課題やグループワークも含めて受講者が積極的に発言等をしてもらう。

予習・復習

授業内容に応じた課題を予習し、他人の意見等を聞いてまとめる復習を予定している。

評価方法

平常点 45%・定期試験 55% 程度で評価する。
なお、既定の出席回数に満たない場合には、原則として単位を認定しない

テキスト

未定。
参考文献は適宜紹介する。

授業概要

社会人基礎力養成の前提となることを指導します。なぜなら、皆さんの直近の目標は、就職して、社会人になることだからです。そこで、1年次春期には、次のことを中心に指導します。

(1) 私たちは、どの世界で活動する場合においても、次の①から③のような思考及び実行の過程を繰り返して、目標(夢)実現に立ち向かいます。①ある特定の「目標」実現に向けて「問題点」を発見し、②その問題点を解決するために情報等を「収集」し、「分析」し、「検討」し、最も妥当な根拠のある解決策を「判断(決定)」し、③その解決策を、最も効率的効果・効果的な方法で「実行」する。

(2) 以上の目的を達成するには、考える力・判断する力・実行する力等が必要ですので、佐藤正勝ゼミのゼミ訓(「なぜ?なぜ?なぜ?」、「だから何だったの?」など。)を実践し、4年間を通じて、これらの力(社会人基礎力)等を指導します。

授業計画

第1回	ガイダンス(自己紹介、授業の進め方全般、配付資料等の説明)
第2回	アイスブレイキング
第3回	社会人基礎力の前提: 佐藤正勝ゼミルール・ブックの内容の説明
第4回	社会人基礎力の前提: 『世の中は、全て、ルールでできている!』
第5回	全ての(判断の)前提には、「目的」がある!
第6回	基礎力の前提①: 元気・挨拶・声掛け・雑談・感謝を!
第7回	基礎力の前提②: 話ができるには! ①: 原則
第8回	基礎力の前提③: 話ができるには! ②: 質問されて答えられないときは?
第9回	基礎力の前提④: やるべきことができなかった・失敗した! では、どうする?
第10回	基礎力の前提⑤: 文字で記憶するのはNG! 記憶は絵、図、ベン図等です!
第11回	自分史・強み・マンダラチャート初歩
第12回	社会常識の初歩
第13回	仕事処理能力養成の初歩
第14回	私たちの未来社会とは: 基礎編
第15回	まとめ
第16回	期末レポートの提出

到達目標

社会人としての資質・能力を養成するために、次の人材養成の内容を到達目標にします。

- 1 生活と学修の規律を守ることができる。
- 2 (佐藤ゼミ独自の)マンダラ・チャートを作成し(自分の目標を決定)することができる。
- 3 人との対話を、スムーズに行うことができる。
- 4 毎日検定等の用語(社会常識)について、本質を踏まえた絵、図、ベン図を書くことができる。
- 5 社会人としての仕事処理能力養成のためのSPⅠのうち基礎的問題を解くことができる。

履修上の注意

- 1 授業には、毎回出席すること。社会人になってからの欠勤は、失職につながります。そんなことのないように、今から準備をする意味で、ゼミだけは、1日も欠席も遅刻もしないで下さい。
- 2 宿題の提出及び提出期限も厳守です。なぜなら、社会人になったら、上司の指示に遅れて仕事をするなど、ないように、今から練習しておくのが目的です。
- 3 自分の頭で考えるという作業を意識して学習して下さい。授業で説明されたことを、理解し、訓練し、実行するという一連の行動により、思考力・判断力が鍛えられます。

予習・復習

予習・復習は、宿題の実行、授業内容の徹底的な「理解・訓練・実行」を徹底して下さい。これらのための学習時間は、90分の授業1回につき、基本的に合計4時間とすることが、文科省の基準です。

評価方法

期末レポートへの配点が70%、宿題提出・発表の内容等が30%です。

テキスト

- ・教科書名: なし(授業で独自資料を配布します)

授業概要

本演習は、大学に入ったばかりのみなさんがこれからの大学生活を「自分らしく」組み立てながら、しかも「学び」を豊かにするために必要な知識やスキルがいっぱい詰まっている。大学は高校までの「学校」とは違い、「ともに学ぶ場」である。大学で学ぶための心がけを3つ示す。①自分で考える（主体性・自己管理能力）②仲間と考える（協働性・コミュニケーション力）③スキルを使ってみる（積極性・行動力）。大学では、教員に教えてもらうというのではなく、自ら進んで学ぶという態度が身につくように指導する。また、知識やスキルは貯めておくのではなく、使ったり、試してみたりすることにより「身につく力」になる。

授業計画

第1回	自己紹介からはじめよう。「大学生になる」とはどういうことだろう。
第2回	大学とはどのようなところだろう 自分の通う大学・学部・学科について知ろう。 大学教員や職員の仕事について知ろう。
第3回	キャリアをデザインしよう。大学生活をデザインしよう。
第4回	大学の授業について知ろう。大学生活のリスクやトラブルについて考えよう。 定期試験をのりきろう
第5回	アクティブラーニングをやってみよう。テーマからトピックを取り出そう。
第6回	図書館で資料をさがそう。インターネットで情報をさがそう 本を手にして読んでみよう。
第7回	図解で考えよう 表・グラフを使って考えよう。議論の方法を知ろう。
第8回	レポートの文章の特徴を知ろう。レジュメを作成、レポートの基本を知り、レポートを完成させよう。
第9回	発表の資料をつくり、発表をやってみよう。 1年間（半期）の学びをふりかえろう。
第10回	レポート発表（1）
第11回	レポート発表（2）
第12回	レポート発表（3）
第13回	レポート発表（4）
第14回	レポート発表（5）
第15回	レポート発表（6）
第16回	期末レポート

到達目標

みなさんが本演習を受講することで、次の2つができるようになることを期待している。
①実際の経験を積むことができる。みなさんが教職員に尋ねたり、仲間とともに考えながら課題を解決していく「経験」を積む。それは、大学の中だけにとどまらない。大学は地域や社会とつながっている。大学以外でも、ボランティアやインターンシップ、あるいは地域のイベント等に参加する等し教養を深めたり、専門の知識や技術を豊かにすることができる。②ふりかえりをして、次に進むことができる。経験はふりかえることで、豊かになる。授業や課題を通してどこまで何を身につけることができたか、まだ足りていないところはどこか、どうしたら目標を達成できるかなどについて、考えながら学んでゆくことが出来る。

履修上の注意

学生と講師によるディスカッションを本演習では大切にしたいと考えている。

予習・復習

★事後学習として、授業で取り上げるケーススタディに関する課題レポートを課す。
★企業を取り巻くグローバル経済・社会の最近の動向について、新聞記事・テレビでニュース・インターネット等を活用し企業の経営活動や経営戦略を定期的にフォローすること。
★関心のある企業の「経営戦略」（多くの企業で「中期経営計画」として企業のホームページでの「企業情報」や「IR（投資家向け情報）」に公表されている）を読み（ホームページで閲覧可能）、専門用語等についての理解を深めておくことが望ましい。

評価方法

1) 期末レポート（50%） 2) 毎回の課題の提出状況（30%） 3) 授業への貢献度（20%）

テキスト

・教科書名：『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』
・著者名：吉原恵子・間渕泰尚・富江英俊・小針誠
・出版社名：実教出版 ・出版年（ISBN）：2011（978-4407340617）

また、教員オリジナルの資料も使用する。実際の経営資料等も含まれるため事前配布は行わない。必要に応じて、授業後に配布可能なスライドを配布する。

授業概要	
本演習では、大学でどんなことを学ぶかしっかり目標を持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得できるよう指導する。大学では自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事である。本演習に参加することで、学ぶことの意味を各々が考え、有意義な大学生活が過ごせるようにして欲しい。	
授業計画	
第 1 回	大学生活に慣れる①（自己紹介の文章作成報告、履修計画の作成）
第 2 回	大学生活に慣れる②（大学での授業のあり方や規則、大学のホームページの利用）
第 3 回	授業の受け方を体得する①（ノートのとり方、テキストの読み方）
第 4 回	授業の受け方を体得する②（レポートの作成法）
第 5 回	大学で学ぶ意味を考える（大学での目標、学力調査）
第 6 回	企業について知り、意見をまとめる①（企業経営やプロジェクト運営、意見の報告）
第 7 回	企業について知り、意見をまとめる②（企業経営やプロジェクト運営、意見の報告）
第 8 回	時事問題を読み、自分の意見を文章にまとめる①（主要な時事問題、論者の意見をまとめる）
第 9 回	時事問題を読み、自分の意見を文章にまとめる②（新聞の社説等を使って、自分の意見をまとめる）
第 10 回	わからない事項を調べる（図書館ツアーの実施、ネット検索などの方法）
第 11 回	意見を発表し、討論する①（関心のあるテーマを調べ、レジュメにして作成し、報告する）
第 12 回	意見を発表し、討論する②（関心のあるテーマを調べ、レジュメにして作成し、報告する）
第 13 回	自分の将来について考える①（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 14 回	自分の将来について考える②（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 15 回	自分の将来について考える③（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 16 回	総括
到達目標	
・自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。 ・政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知ることができる。 ・大学での学び方を体得することができる。	
履修上の注意	
1 年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかり持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論してほしい。なお、学外活動を行う場合がある。 予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。	
予習・復習	
事前に指示した事項について調べ、翌週に答えられるような形で予習・復習に取り組むこと。	
評価方法	
授業への取り組み、課題の提出状況、レポート等により評価する。 評価の目安：課題提出 60%、レポート等 30%、その他 10%	
テキスト	
・開講時に指示する。 ・必要に応じて、資料を配布する。	

授業概要

大学に入学して最初の演習として、これから4年間の大学での学修活動、さらには社会に出たあとにも必要とされる、主体性、コミュニケーション能力、情報収集力、課題発見力（総称して「社会人基礎力」）などを伸ばすことを目的としたアクティブ・ラーニングを実践する。この演習では、①PBL（Project-Based Learning）形式で学修を継続することでリテラシー（知識活用）とコンピテンシー（行動実践）と呼ばれるジェネリックスキルを育成し、②大学や社会で求められる文章を書くための「アカデミック・ライティング」の基礎を学ぶことで、言いたいことを効果的に読み手に伝える技法を身につけられるよう指導する。

授業計画

第1回	（テキスト第1章）オリエンテーション（スタディ・スキルズとは）
第2回	（テキスト第2章）ノート・テイキング：ノートをとること・メモをとること
第3回	（テキスト第3章）リーディングの基本スキル：二度読み方式
第4回	（テキスト第4章）より深いリーディングのために：要約する、感想・意見をもつ
第5回	（テキスト第5章）大学図書館（情報メディアセンター）における情報収集
第6回	（テキスト第6章）インターネットによる情報収集(1)：インターネットを利用した文献調査
第7回	（テキスト第6章）インターネットによる情報収集(2)：ネット情報の真偽と裏取り
第8回	（テキスト第7章）情報の整理(1)：文献リストを作成する
第9回	（テキスト第7章）情報の整理(2)：有料データベースの活用（情報メディアセンター）
第10回	（テキスト第8章）アカデミック・ライティングの基本スキル：レポート・論文の作法
第11回	（テキスト第9章）効果的なアカデミック・ライティングのために：文章のわかりやすさ
第12回	（テキスト第10章）パソコンによるライティング・スキル(1)：Wordでのレポート作成術
第13回	（テキスト第10章）パソコンによるライティング・スキル(2)：Excelでのデータ分析術
第14回	（テキスト第11章）プレゼンテーションの基本スキル：話すプレゼンテーション
第15回	（テキスト第12章）わかりやすいプレゼンテーションのために：リハーサルの重要性
第16回	総括（この演習のまとめ）

到達目標

- (1) 自分から意欲的に物事に取り組むことができる
- (2) 自分の意見を論理的に人に伝えることができる
- (3) 情報を収集・整理・分析し、問題解決に結びつけることができる
- (4) 大学や社会で求められる水準のレポートを書くことができる

履修上の注意

この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持ち、ジェネリックスキルを習得することにある。テキスト内容を一から十まで読み上げるような、受け身の「座学形式の講義」ではなく、学生が自ら参加し、議論しながら考える能力を伸ばしていくことを最も重視する。事前連絡なしの欠席・遅参を厳禁とし、疾病・負傷等による欠席は、必ず授業開始前に連絡する。演習回により、履修生各自にノートパソコンを持参してもらうことがある。

予習・復習

- ・予習：テキストにしたがい進行するので、次回の該当章を事前に目を通す（90分）
- ・復習：手元の資料やノートをとった内容に基づき演習内容を振り返り、不足部分を補う（60分）

評価方法

①演習への取り組み姿勢（55%）、②演習内容での質疑応答内容（45%）、で総合的に評価する。ただし、成績評価には、出席ポイント10.0pt以上が必要条件である。

テキスト

- ・教科書名：『知へのステップ（第5版） 大学生からのスタディ・スキルズ』
- ・著者名：学習技術研究会編
- ・出版社名：くろしお出版
- ・出版年（ISBN）：2019年（ISBN: 978-4-87424-789-1）

授業概要

本演習のテーマは「大学生になろう」である。

大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後必要なスキルを修得することと、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが本演習の目的である。

本演習では、コミュニケーション能力を高めマインドセットを理解することで、大学での学びを深める準備をする。

授業計画

第1回	概要
第2回	大学を知る
第3回	コミュニケーション力を高める①読む
第4回	コミュニケーション力を高める②書く
第5回	コミュニケーション力を高める③話す
第6回	コミュニケーション力を高める④議論する
第7回	コミュニケーション力を高める⑤振り返り
第8回	マインドセットを理解する①マインドセットとは
第9回	マインドセットを理解する②二つのマインドセット
第10回	マインドセットを理解する③マインドセットと能力
第11回	プレゼンテーション①準備
第12回	プレゼンテーション②資料作成
第13回	プレゼンテーション③発表
第14回	プレゼンテーション④発表
第15回	レポート作成
第16回	期末テスト

到達目標

- ・大学の施設・設備を有効に活用できる。
- ・自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- ・大学での学び方を体得できる。

履修上の注意

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論して欲しい。なお、学外活動を行う場合がある

予習・復習

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

評価方法

授業への取り組み（30％）、課題の提出状況（30％）、レポートまたは試験（40％）により総合的に評価する

テキスト

指定しない

授業概要

大学では、既存の知識を身につけるだけではなく、世の中にあふれる情報を精査し、整理し、問題を発見し、さらにその問題を解決する方法を見出して、自分なりの結論を導き、それを人に効果的に伝えられるようになることが期待されています。本講義では、そのひとつひとつの作業に関わる技術を、なるべくわかりやすく指導します。具体的には、レポート・論文の作成、研究調査と研究発表の実施に直接的に役立つ内容をあつかいます。

授業計画

第1回	アカデミック・スキルズとは①
第2回	アカデミック・スキルズとは②
第3回	講義を聞いてノートをとる
第4回	情報収集の基礎①
第5回	情報収集の基礎②
第6回	本を読む①
第7回	本を読む②
第8回	情報整理①
第9回	情報整理②
第10回	研究成果の発表①
第11回	研究成果の発表②
第12回	プレゼンテーション（口頭発表）のやり方
第13回	論文・レポートをまとめる
第14回	プレゼンテーションの実践①
第15回	プレゼンテーションの実践②
第16回	レポートの提出

到達目標

- ①アカデミック・スキルズとは何か、説明できる。
- ②情報収集・情報整理ができる。
- ③自分が発見した問題を、情報・データをもとに自分なりの結論を導き、それを人に効果的に伝えられることができる。

履修上の注意

- ①遅刻・欠席はなるべくしないでください。
- ②演習という少人数の環境なので、積極的に自分の考えを発言してください。

予習・復習

- ①予習は、テキストの次回の講義の該当箇所を読んで、レジュメ（要約とコメント）を作成してください。
- ②復習は、演習中に新たに出てきた専門用語や理論など、再度調べて理解を深めるようにしてください。

評価方法

- ② 毎回提出のレジュメの内容を評価します。50%
- ②第14回、第15回に実施するプレゼンテーションを評価します。30%
- ③レポートの提出を評価します。20%

テキスト

- ・教科書名：アカデミック・スキルズ 第3版
- ・著者名：佐藤望 編著
- ・出版社名：慶應義塾大学出版会
- ・出版年（ISBN）：2020年（978-4766426564）

授業概要

この演習では、「大学での学びの技術」を習得し、大学生活の基礎を作ること为目标に指導していきます。大学では、高校までとは違い、自ら進んで学業を修めるという自発的・積極的な姿勢が必要です。よりよい大学生活を過ごすための基礎を作る時間にし、また、学修を通して、教員やクラスの仲間と親睦を深め、豊かな人間関係を構築していきましょう。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	アイスブレーキング
第3回	ノートの取り方
第4回	テキストの読み方
第5回	大学図書館の使い方
第6回	体育祭の参加
第7回	レポートの書き方①
第8回	資料の探し方
第9回	レポートの書き方②
第10回	レポートの書き方③
第11回	レジュメの作成
第12回	プレゼンテーションの仕方
第13回	発表準備①
第14回	発表準備②
第15回	発表
第16回	レポート提出

到達目標

本演習は、以下の2点を到達目標とします。

- 大学で学ぶことの意義と目的を自覚し、学問に取り組む姿勢を身につけることができる。
- 大学生活を送るうえで必要となる基礎的なスキルを使うことができる。

履修上の注意

- 大学での学びの基礎となる科目のため、毎回の授業に必ず出席してください。
- シラバスの内容は、参加者の人数や進捗状況に応じて調整・変更されることがあります。
- やむを得ない場合は欠席（または遅刻）をする場合は、必ず水野まで連絡をすること。
- 5月頃に開催される体育祭に参加します。この授業の履修者は必ず参加してもらいます。ただし、体育祭は授業時間以外に開催されるため、授業日の変更があります。
- 最後の発表ではパソコンを使用します。それまでに各自ノートパソコンまたは、タブレットを用意してください。

予習・復習

予習：テーマについて調べる。発表担当者は発表の資料（レジュメ・パワーポイント）を作成する。
復習：学習した内容を他の授業等で活用し、大学生活を送ること。

評価方法

- 発表（40％）最終レポート（30％）毎回の課題（30％）で評価する。

テキスト

- テキストは定めない。必要な資料は適宜配布します。
- 参考図書「大学生・学びのハンドブック [5訂版]」世界思想社編集部、世界思想社、1200円（税別）、ISBN：9784790717492

授業概要

大学生活を円滑に開始し、大学 4 年間の学びの基礎を作ること为目标に演習を展開、指導します。具体的には、①大学での学びについての理解（高校と大学の違い）、②資料のまとめ方の修得、③資料収集の方法の修得、④個人・グループでの発表練習を行います。

一方的に授業内容を聴く「講義形式」とは異なり、自ら考えを発表したり、手を動かしてみたり、グループワークを行って発表するなど、毎回主体的な授業参加が求められます。

授業計画

第 1 回	大学生活に慣れる①：オリエンテーション、履修計画の作成
第 2 回	大学生活に慣れる②：大学生としての過ごし方
第 3 回	授業の受け方を体得する①：講義ノートを取り方、テキストの読み方
第 4 回	授業の受け方を体得する②：レポートの書き方
第 5 回	発表の仕方を体得する①：レジュメの作り方
第 6 回	発表の仕方を体得する②：発表する練習
第 7 回	議論をする練習をする
第 8 回	図書館の使い方を知る
第 9 回	グループ発表のテーマを決める
第 10 回	グループ発表に向けて準備をする①
第 11 回	グループ発表に向けて準備をする②
第 12 回	グループ発表をする①
第 13 回	グループ発表をする②
第 14 回	読書発表会：1 人ずつ選んだ本について発表する
第 15 回	まとめ
第 16 回	レポート提出

到達目標

- 大学で学ぶための基礎的体力を身につけることができる。
- 発表資料の作り方を学び、実際に資料を作成することができる。
- 課題に対して自分の意見を持ち、それを周囲に発表することができる。

履修上の注意

大学 4 年間、そして社会人になった後にも必要な知識やスキルの基礎となる演習科目ですので、主体的に毎回の授業に出席してください。

予習・復習

事前に指示した事柄について調べて授業に臨み、授業後は授業内容についてよく復習すること。

評価方法

グループ発表への取り組み姿勢 30%、演習全体への取り組み姿勢 30%、レポート内容 40%

テキスト

特に使用しない。必要に応じて適宜指示する。

授業概要

「教養」という科目は、高校の教科にはなかったのではなかろうか？「教養」とは、社会人として必要な広い文化的な知識であり、その内容は時代・社会とともに変化する。「教養」を身に着ける方法の1つは、「新書」を読むことである。ここでは、「新書」として『ほんとうの日本経済 データが示す「これから起こること」』（坂本貴志）を読み込み、レジュメにまとめ、発表し、みんなで討論して、「日本において、加速する人口減少は何をもたらすのか？」を考えるなかで、社会人として必要な「教養」を手に入れる手法について指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方、評価方法）
第2回	人手不足の先端を走る地方中小企業の実情（1）
第3回	人手不足の先端を走る地方中小企業の実情（2）
第4回	変化1 人口減少局面に入った日本経済
第5回	変化2 生産性は堅調も、経済成長率は低迷
第6回	変化3 需要不足から供給制約へ
第7回	変化4 正規化が進む若年労働市場
第8回	変化5 賃金は上がり始めている
第9回	変化6 急速に減少する労働時間
第10回	変化7 労働参加率は主要国で最高水準に
第11回	変化8 膨張する医療・介護産業
第12回	変化9 能力増強のための投資から省人化投資へ
第13回	変化10 人件費高騰が引き起こすインフレーション
第14回	人口減少経済でこれから何が起こるのか
第15回	人口減少局面における社会選択
第16回	期末試験（課題レポート）

到達目標

- ・「新書」に挑戦し、読み込むことができる。
- ・「新書」を読んだ内容を仲間に説明することができる。
- ・自ら説明したことや仲間から受けた説明に関して、質疑応答することができる。
- ・仲間と討論することによって、「新書」には書かれていなかった自分なりのテーマを見つけられる。

履修上の注意

高校の教科にはなかった「教養」で身に着けた手法は、これから大学において様々な学問や自らの専門分野を習得するうえで大いに役立つ。毎回演習に参加して、それを習慣化しよう。
授業のスピードは、受講生の理解度などを勘案のうえ適宜適切に調整する。

予習・復習

予習：発表担当者は、担当箇所を読み込み、レジュメを人数分用意し、発表後の想定問答をイメージしておく。その他の参加者は、各回の箇所を読み込んで、質問を1つ考えてくる。
復習：課題レポートのために、各回の発表内容や質疑応答の内容を取りまとめておく。

評価方法

担当箇所の発表と質疑応答（50%）、発表者への質問（30%）、課題レポート（20%）

テキスト

- ・教科書名：ほんとうの日本経済 データが示す「これから起こること」
- ・著者名：坂本貴志
- ・出版社名：講談社現代新書
- ・出版年（ISBN）：978-4-06-537197-8

授業概要

この演習では「問題解決のための数学的発想」をテーマにして、皆さんがこれまでに学んできた数学が、世の中の様々な問題解決のためにどのように生かせるか考え、自分なりの理解の仕方をまとめ、発表できるよう指導します。

経済・経営分野に限らず、文系・理工系の多くの分野では論理的に考える力が必要とされ、さらには社会に出てからも論理的に考える場面に直面することが多々あります。そのような論理的思考の素養を培うのに、実は小中高校で学んできた数学的な発想が多いに役立っています。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	情報の整理
第3回	情報の整理のまとめ
第4回	論理的な順序
第5回	論理的な順序のまとめ
第6回	理解し易く変換
第7回	理解し易く変換のまとめ
第8回	抽象化
第9回	抽象化のまとめ
第10回	具体化
第11回	具体化のまとめ
第12回	逆の視点
第13回	逆の視点のまとめ
第14回	数学的なセンス
第15回	数学的なセンスのまとめ
第16回	レポート提出

到達目標

- 問題解決の数学的発想について、概要を把握できる。
- レジюмеやレポートの書き方を学び、各回の授業において事前に作成できる。
- プレゼンテーションの手法を学び、各回の授業で適切にできる。
- ディスカッションのやり方を学び、各回の授業において効果的にできる。

履修上の注意

大学生活に慣れていくために、教養演習Ⅰでの経験は極めて重要です。資料の作成、発表、議論などの基本を春学期の間には是非習得しましょう。

予習・復習

予習は、テキストの次回の講義の該当箇所を読んで、レジюме（要約とコメント）を作成してください。復習は、演習中に新たに出てきた用語や理論など、再度調べて理解を深めるようにしてください。

評価方法

授業への取り組み、課題提出状況、レポート等により評価する。

レジюме等の作成・発表内容：30%

レポート提出：30%

ディスカッションへの貢献：40%

テキスト

- ・教科書名：根っからの文系のためのシンプル数学発想術
- ・著者名：永野裕之
- ・出版社名：技術評論社
- ・出版年（ISBN）：2013年（9784774160603）

授業概要

本演習では、経営学や経済学を学ぶ上で実際の経済や企業経営の動きをフォローして有用な知識を身に付け、各先生方から習う経済理論や経営理論を実際に使える有用なものにするためには、新聞や経済雑誌等の経済記事の理解、分析、応用等を進めていくことが必要です。ある経済記事はその他の経済事象や社会事象と関係があります。どのような経済的・社会的インパクトがあるのかを評価することが大切です。マクロ経済、企業業績、市場動向、国際関係の各分野において、実際の各記事を使って、追加調査による関連情報も活用して議論を行い、知見として定着できるよう指導します。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	新聞、経済雑誌、ネットニュース等の経済記事メディアについて
第3回	マクロ経済の記事についての分析と議論 1
第4回	マクロ経済の記事についての分析と議論 2
第5回	マクロ経済の記事についての分析と議論 3
第6回	企業業績の記事についての分析と議論 1
第7回	企業業績の記事についての分析と議論 2
第8回	企業業績の記事についての分析と議論 3
第9回	市場動向(為替)についての分析と議論 1
第10回	市場動向(為替)についての分析と議論 2
第11回	市場動向(株価)についての分析と議論 1
第12回	市場動向(株価)についての分析と議論 2
第13回	市場動向(金利)についての分析と議論 1
第14回	市場動向(金利)についての分析と議論 2
第15回	今後の取り組みに向けての課題整理
第16回	期末試験

到達目標

- ・経済理論や経営理論が実経済や企業経営にどう関連づけられるかの基礎を身につけることができる。
- ・各経済記事を読んで、その意義やインパクトを理解、分析し、知見を得るプロセスを習得することができる。

履修上の注意

経済記事を読んで、理解、分析、応用を自ら発表し、皆さんで議論することにより一定の結論を得ることを目指します。したがって、積極的に議論に参加することが条件になります。

予習・復習

特定の記事を当方が提供することからはじめ、その後は各自記事を収集することから始めて対応することを求めます。

評価方法

授業と事前準備の内容 70%、期末試験 30%で評価します。

テキスト

必要な資料は用意します。

授業概要

この授業は、大学における学習者としての基本的な心がまえや学習方法、教職員間・学生間の人的ネットワークを構築することを目的とします。大学において学ぶとは何かを探求するとともにアカデミックスキルの獲得を図ります。ディスカッションでの授業をすすめるため少人数グループ学習を導入し、個別の学習支援、指導を行います。また、成果発表を通してプレゼンテーションスキルの修得を図る学習機会を提供します。

授業計画

※「授業の計画」はクラスの状態、進行によって変更することがありますので、ご理解ください。

第1回	オリエンテーション(大学で学ぶにあたって)大学での学び、協同作業・ポートフォリオの説明
第2回	自己紹介(自己紹介資料を作成してくること)、時間割のチェック、グループ親睦(4~6人/g)
第3回	教養演習Ⅰのガイダンス：シラバス、ゼミ運営、レジュメ作成、グループ課題(SDGs)の説明
第4回	資料「大学で学ぶということ」を読み、レジュメを作成し、グループディスカッションする。
第5回	自己の目標設定、役割分担、活動計画をグループで決める。
第6回	資料「大学生生活を送る」「キャリアの探求」のレジュメを作成し、グループディスカッション
第7回	資料「効果的な学び方」「ノートの取り方」のレジュメを作成し、グループディスカッション
第8回	課題学習の目的や方法、文献収集の方法、ポスターづくりの方法や日程を説明する。
第9回	テーマ決め：SDGsの17テーマから1つをグループで選択する。リーダー決め
第10回	サブテーマ決め：具体的な検討課題であるサブテーマを決定する。役割分担
第11回	グループ学習1：文献調査をしてきた結果をグループ内で発表し、ディスカッション
第12回	グループ学習2：討論結果を踏まえてポスター作りを開始する
第13回	グループ学習3：ポスターの下書き、発表原稿、Q&A集等の作成
第14回	グループ学習4：ポスターの作成、ポスター発表会の準備
第15回	グループ毎にポスター発表会：振り返り、ポートフォリオの提出日を指定

到達目標

本授業の到達目標は以下の3つとなります。

- ① 大学における学習法が理解でき、実践できる。
- ② 仲間、先輩、教職員との積極的な交流ができる。
- ③ 大学での自己の目標を設定し、その達成に向けた取り組みを開始できる。

履修上の注意

グループ学習には積極的に参加してください。グループ学習については授業外などの日程で実施される可能性があるため、グループ内で確認すること。

※シラバスはクラスの状態、講義の進行状況によって変更することがありますので、予めご理解下さい。

予習・復習

各自でテーマに沿った文献を検索し、図書館を利用して文献を取り寄せ、レジュメ作成時に活用してください。効果的なグループ学習ができるように計画的に、事前準備をして演習に出席してください。授業後は、学習内容および学習成果を振り返り、自身で情報を整理しておくことが重要です。

評価方法

グループ活動の取り組み状況(コミットメント)・貢献度(40点)、②レジュメの作成・討議資料・ポスター(30点)、③発表会でのプレゼンテーション方法&内容(20点)④ポートフォリオの活用(提出期限・自己評価)(10点)合計100点。ただし、グループ学習への取り組み不良者は不可となります。

テキスト

- ・教科書名：よくわかる学びの技法[第3版]
 - ・著者名：田中共子編
 - ・出版社名：ミネルバ書房
 - ・出版年(ISBN)：2019年(978-4-623-08480-7)
- その他、必要な資料を配布します。参考書を別途指示します。

授業概要

新たに大学生活を送るにあたり、皆さんは期待と不安でいっぱいなのではないかと思います。大学での勉強は、高校までの勉強と違い、与えられた知識を暗記し応用することだけではなく、与えられた課題に対して、自ら考え、自分なりの答えを発見していく、研究の姿勢も求められます。でも、それまでの勉強スタイルをどう変え、どのように授業に臨み、課題に向かっていくべきなのか等を、いきなり身に付けることは難しいことです。本演習は、アカデミック・スキルズと呼ばれる、大学での勉強に対する基礎的技法を身に付けるために、みんなで学び、みんなで演習し、みんなで考え議論することで、みなさんが有意義な大学生活を過ごしていけることを目的としています。

授業計画

第1回	ガイダンス、お互い自己紹介をしよう
第2回	大学生活の目標を立てよう 履修計画を立てよう
第3回	大学での勉強に対する基礎的技法にはなにがあるか
第4回	アカデミック・スキルズについて学ぼう①
第5回	アカデミック・スキルズについて学ぼう②
第6回	アカデミック・スキルズについて学ぼう③
第7回	アカデミック・スキルズについて学ぼう④
第8回	グループ・ワークのネタを探そう（新聞やニュースの話題を知ろう）①
第9回	グループ・ワークのネタを探そう（新聞やニュースの話題を知ろう）②
第10回	グループ・ワーク（情報収集し、発表資料を作成しよう）①
第11回	グループ・ワーク（情報収集し、発表資料を作成しよう）②
第12回	グループ・ワーク（作成した資料を発表し、みんなで議論しよう）②
第13回	グループ・ワーク（作成した資料を発表し、みんなで議論しよう）③
第14回	グループ・ワーク（作成した資料を発表し、みんなで議論しよう）
第15回	まとめ
第16回	レポートの提出

到達目標

1. 大学での勉強に対する基礎的技法を身に付けることができる。
2. 自己を理解し、他者を理解する力を身に付けることができる。
3. 社会の諸課題に目を向け、一定の情報収集・資料作成・発表ができる。

履修上の注意

授業では皆さんとの対話を積極的に試みますので、関連な参加を期待します。

予習・復習

テキストは、大学での勉強に対する基礎的技法を身に付けるための知識がわかりやすく書いてありますので、適宜熟読してください。

評価方法

授業への積極的な参加 50%、発表資料50%

テキスト

- ・教科書名：アカデミック・スキルズ 第3版 一大学生のための知的技法入門
- ・著者名：佐藤望（編著）、湯川武、横山千晶、近藤明彦
- ・出版社名：慶應義塾大学出版会
- ・出版年（ISBN）：2020年